

平成 27 年度 経済学研究科入学試験問題 (一般 追加)

科目名：マクロ・ミクロ経済学 (理論と応用)

つぎの 2 つの問題群 A、B の中から、それぞれ 1 問を選び、解答しなさい。ただし、選んだ問題の番号も明示すること。

[A 群]

- [1] 中央銀行が行う量的緩和政策 (マネタリー・ベースを増加させる政策) の効果について考える。近年、物価水準を上昇させる手段として、各国が量的緩和政策を採用している。しかしながら、その効果については、未だ一致した見解がある訳ではない。その上で、以下の 2 つの設問すべてに答えなさい。解答に際し、必要ならばグラフや数式を用いても構わない。
- (1) 量的緩和政策は、本当に物価水準を高めることができるのか否か。その理由も含め、マクロ経済学の枠組みで論じなさい。
 - (2) アメリカのような経済大国が大規模な量的緩和政策を行うと、新興国の経済はどのような影響を受けるのか。マクロ経済学の理論を用いて説明しなさい。
- [2] 財政政策について、以下の 2 つの設問すべてに答えなさい。解答に際し、必要ならばグラフや数式を用いても構わない。
- (1) 経済が完全雇用状態にあるものとする。このとき追加的な公共投資 (つまり拡張的な財政政策) を行うと、その経済にどのような影響を及ぼすか。マクロ経済学の視点から理論的に説明しなさい。
 - (2) ある国における大規模な財政政策は、別の国 (小国を仮定する) のマクロ経済にいかなる影響を与えるか。理論的に論じなさい。

[B 群]

- [3] ある消費者が 1 日のうちの稼働可能な時間 A (正定数) を労働 L と余暇 X とに振り分け、このうち労働によって得た賃金所得すべてを消費財の消費 C に費やしている。ここで、労働賃金率を $\omega > 0$ 、消費財価格を $p > 0$ とするとき、以下の 2 つの間に答えなさい。
- (1) 労働賃金率 ω ならびに消費財価格 p を所与とするとき、この消費者の最適な労働量 (労働時間) L 、余暇時間 X 、そして消費財の消費量 C がどのように決まるか、説明しなさい。説明にあたって図を用いる場合は、横軸に余暇時間 (もしくは労働量)、縦軸に消費財の消費量をとったグラフを用いること。
 - (2) 労働の実質賃金率 ω/p がさまざまに変化するとき、(1) で求めた最適な労働量 L がどう変化するかを考察し、それによって労働の供給関数を導出しなさい。
- [4] 「外部不経済」があるとき、市場は最適な資源配分に失敗すると言われる。これについて、以下の 3 つの間に答えなさい。
- (1) 「外部不経済」とは何か、具体的事例を挙げ、説明しなさい。
 - (2) 「外部不経済」があるとき、なぜ市場は失敗するのか、説明しなさい。
 - (3) 「外部不経済」による市場の失敗を克服するため、どのような政策が考えられるか、説明しなさい。

[以上]